

／ ライフケアサポート情報誌 ／

こもれび

K O M O R E B I

特集

共に生きる地域づくりに向けて

～広がる連携の輪～



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252

□ <http://www.saiseikai-kg.jp>

2017

vol.20

SUMMER



鹿児島における済生会実践論Ⅷ

共に生きる地域づくりに向けて

～広がる連携の輪～

今年の夏は暑いと予測されています。中国医学では気象を「風・寒・暑・湿・燥・火」の6種類に分け、六気と呼ばれています。

本来六気の気象現象は万物の成長に必要な不可欠ですが、異常気象などにより六気が一定の正常範囲を超えると六邪と呼ばれ、人体にも体調不良や疾病を引き起こしやすいとみなされています。

鹿児島も梅雨から夏にかけて湿邪・暑邪・火邪の起こりやすい風土であり、特に高齢者、乳幼児、虚弱体質、胃腸や心臓が弱っている人、気候の変化に敏感に反応する人等は要注意です。

これらを乗り切るためには、過剰の熱と湿気を取り去る食材(すいか、きゅうり等の夏野菜)、内湿を取り冷えを防ぐしょうが紅茶等、ニガウリ等の苦み食材、ハーブや香辛料の辛味食材、酸味の食材等の食養生法と、適度の運動、十分な睡眠、低温入浴によるデトックス法等により夏バテを防止しましょう。

さて、済生会では地域に生活する老若男女、障がい者も健常者も、生活困窮者や様々な理由により地域で生きづらさを抱えておられるすべての方々が互いにあたたかく包み込んで「共に生きる地域づくり」に向けた済生会活動を推進しています。

「共に生きる地域づくり」の主役は地域住民の方々であり、住民自身と保健・医療・介護・福祉・生活支援に携わる地域の多業種・多職種の方々(行政含む)との協働による地域づくりが必要です。

取り組みの進め方は、①済生会が事業主体となった取り組み②外部事業主体(行政や住民活動含む)の取り組みに済生会が協働したかたちの取り組み③その他が必要と考えています。

済生会鹿児島地域福祉センターでは平成28年度から上記①、②の取り組みを本格的に開始し、「共に生きる地域づくり」の連携の輪が広がりつつあります。

今号ではこれらの取り組みの一端をご報告します。

まず、①済生会が事業主体となった取り組みについては、(1)済生会地域包括ケアセンターの構築準備中(2)住民の自助・互助・地域づくり力エンパワーメントを目指した「共に生きる地域包括ケア推進ボランティア養成講座」の取り組みです。講座の詳細は既に2016年の秋号にてご紹介しました。これらの講座修了生29名はその後、自主的OB会を結成し、各分野で活躍中です。

Aさん(男性)とBさん(女性)は、県設市営の独居高齢者等を対象としたシルバーハウジングの生活相談員として、ボランティアスピリットで入居者の見守り・安否確認・生活相談・人生相談に従事され、Cさん(女性)は近隣の生活困窮者を把握し済生会に繋いでいただく取り組みや、松元地区で実施した



済生会出前講座の実務ボランティアとして従事され、Dさん(女性)はデイサービスボランティアとして利用者のお世話を、Eさん他13名は福祉施設の清掃ボランティアをされるなど活躍中です。

さらに、修了生のうち11名は、鹿児島市の「生活予防・生活支援サービス従事者研修」を受け、今後新たな地域福祉の支え手としての活動に備えています。

次いで平成29年度には鹿児島市との共催により、市内松元地区で同様趣旨の出前講座を実施し、同じく29名の方々がこの6月に受講修了され、うち9割の方々が今後「共に生きる地域づくり」のボランティア活動や互助活動等をやりたいと意欲満々であり、今後の活動と連携の広がりが楽しみです。

済生会は修了生がOB会を拠点に繋がりを強化し、地域ニーズの情報交換や自助・互助・共に生きる地域づくりの一層の研鑽を積み活動できるよう支援していきます。

このように、済生会の取り組みは、まず「共に生きる地域づくり」を支える住民の自助・互助・地域づくり力を高め、エンパワーメントされた住民が必要な社会資源と繋がれるよう、自ら選ばれる社会資源であることを目指すとともに、地域に真の社会的包摂に向けた多業種・多職種連携協働の輪を広げることをめざしています。

次に②他事業所実施主体の取り組みに済生会が積極的に協働して、地域づくりの連携の輪を広げている例です。

今号ではNPO法人地域ケア交流会が事業主体である地域ケア交流会と地域フェスタに、済生会が積極的に参画し、福祉事業者はじめ住民や多業種の協働により地域づくり連携の輪を広げる取り組みに貢献している事例をご紹介します。

済生会は、自ら地域包括ケアシステム推進の資質を高めつつ、住民自らが心身ともに健康で、互助と社会的包摂の理念のもとに「共に生きる地域づくり」の主役となり、それを支援する社会資源としての多職種・多職能の連携の輪が広がっていくよう今後とも使命を発揮して参りたいと思います。皆様のご協力とご支援をよろしくお願いします。

なお、今秋から済生会第三期「共に生きる地域包括ケア推進ボランティア育成講座」を開講予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

社会福祉法人恩賜財団済生会支部 鹿児島県済生会支部長

済生会鹿児島地域福祉センター所長 吉田 紀子

〔特集〕

共に生きる地域づくりに向けて ～広がる連携の輪～

「全人的健康づくり講座 in 松元」開講しました！

済生会鹿児島地域福祉センターでは、「健康寿命の延伸（介護予防）」と要援護状態になっても「安心安全で共に助け合って生きるまちづくり」に向けて、「共に生きる地域包括ケア推進ボランティア養成講座」を昨年より開講しています。

今回、地域の皆様からのご要望もあり、松元地区（都市農村交流センターお茶の里）で事業目的に沿ったミニ講座を6月に開講致しました。



鹿児島市長寿あんしん相談センター松元や松元地区民生委員児童委員協議会のご協力の下、4月18日に32名の受講生で開講式を迎えました。

「全人的健康・福祉生活増進プログラム」を用い、自身の全人的健康生活自助力・互助力・共助力を高めるとともに、すべての人々が共に生きる地域づくり力の醸成に寄与することを目的に講座を進めております。

8回のプログラムが進む中、受講生からは、「全人的健康の意味が理解できるようになった。」「健康であるためには、身体だけではなく、『心』のありかた、心が健康でなければいけない。」などの感想が聞かれています。

6月20日に閉講式を迎え卒業される方々が、自身の健康と家族、地域の方々の全人的健康の為にボランティア力を身につけられ、活躍されることを期待しております。

※全人的健康とは、「人間の身体・こころ・いのち」丸ごとの健康のことをいいます。



ボランティア養成講座修了生 活躍しています!

福祉センターでは、昨年8月に、互助のまちづくりに向けて、「共に生きる地域包括ケア推進ボランティア養成講座」を開講。29名の皆さんが卒業されました。

約3か月間の講座により、自分の全人的健康を高めるとともに、だれかの力になる利他力、お互いを助け合う互助力をつけられた修了生が、地域や施設、事業所でボランティアや支援員として活動いただいています。また、鹿児島市が主催する「生活予防・生活支援サービス従事者研修会」を11名の修了生が受講され、今後、地域の支え手として活動されます。

ボランティア養成講座修了生の活動を一部ご紹介します。

～デイサービスのお手伝い～

週3回、武岡台デイサービスセンターで利用者の皆さんにお茶を配ったり、入浴後の整髪をしたり、ボランティアで活動されています。

「皆さんの役に立てることがうれしい。自分のペースで楽しく活動しています。」と西中村さん。

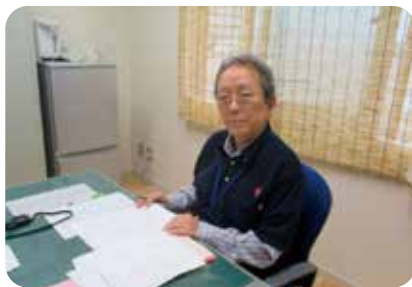


～講座のアシスタントとして～

「全人的健康づくり講座in松元」の講座でアシスタントとして、受講生の皆さんのサポートをして講座を支えてくださいました。「ボランティアをすることが大好きです。今回、スタッフとして参加しましたが、講義を聞きながら復習することができて、あらためて学ばせて頂きました。」と矢内さん。

～シルバーハウジングの支援員として～

2月よりシルバーハウジングで支援員として入居者の皆さんからの相談や安否確認等に携わって頂いている、長谷場さんと龍野さん。「ボランティア講座で学習させて頂きました数々の事柄を活用しつつ安否確認、生活・健康相談また、雑談等、皆さんとのふれあいを大切にしています」と龍野さん。



「1人暮らしの高齢者の方々から“毎日、声をかけてもらってうれしい”と喜んで頂いています。人の役に立つ、やりがいのある仕事です。」と長谷場さん。

(年末の清掃活動)

昨年末には、修了生の皆さんが施設の大掃除に来てくださいました。



今回の松元での講座修了生を含め修了生が約60名となります。
共に生きる地域づくりに向けて、活動の輪が広がります!



共に生きる地域づくりに向けて

～広がる連携の輪～

第1回「福祉フェスタinはらら」に参画!

「福祉フェスタinはらら」実行委員会

実行委員長 **福崎 修也**

(デイサービスセンター高喜苑/管理者)

平成29年6月11日(日曜日)、鹿児島市の原良小学校で第1回「福祉フェスタinはらら」が開催され、800名を上回る参加がありました。

当日は、朝からあいにくの雨模様でしたが、皆さんの「思い」が天に届いたのか、イベント開始頃には雨も上がり、来場者も増え、会場は子どもから高齢者の方まで、大賑わいでした。

主なイベントは、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉の向上や、健康増進、衛生管理、環境保護などに役立つ体験・見学ブースの他に、参加者の楽しみづくりを目的としたワークショップや、福祉活動の資源確保、食育など健康に配慮した食品を紹介するバザーブースなど50以上のブースが集まりました。

別館では認知症サポーター養成講座が開催され、認知症に関する学習の場も設けられました。

実行委員会では、お菓子がもらえるじゃんけんゲームやタンバリン演奏などグループ毎に企画したさまざまなイベントを実施。楽しみや学びのある福祉フェスタとなりました。会場では、原良小学校のブラスバンドやジャンベ演奏。宇宿小学校の夢太鼓演奏や大石兵六夢物語をモチーフにした創作狂言の披露もあり、手拍子や音頭をとるなど、参加者のなかでも一体感が生まれたようです。

ブースを体験された方々からは、「知らなかった。体験したことがなかった」「新たに社会資源を知ることができた」「福祉に対するイメージが明るくなった」等の感想が聞かれ、地域福祉における社会資源の理解が深まったようです。

実行委員やブースの運営者も、互いのブースを見学・体験したり情報交換をすることによって、それぞれのサービス内容を知ることができ、相互理解に基づく連携や支援協力体制のきっかけづくりが出来たように感じました。





今回のフェスタは、七福神(天祐会)が企画・運営を担当。多くの医療・福祉の事業者に参加いただいて実行委員会を設置して本年2月から準備をすすめてきました。当地域福祉センターは実行委員会の事務局を務めさせていただきました。

月に1回開催の委員会は、初回は30名ほどでしたが、最終的には50名を超す委員が集結し、会を重ねるごとに徐々に企画の内容が明確になり、各委員のモチベーションもあがり、多事業所、多職種にもかかわらず「チーム」としての一体感が高まりました。

医療・福祉の関係者だけでなく、一般や企業の方々もブース(体験コーナーやワークショップ、バザー等)として参加いただいたほか、多数の医療や福祉関係機関、企業の方々に協賛いただくなど、多くの皆様方のご支援、ご協力のもとに開催した第1回目の福祉フェスタでしたが、お陰様で成功裡に終了することができました。

これを契機に今後とも医療や福祉の専門職種だけではなく、地域やさまざまな職種の方々と連携して、「地域福祉」を構築していきたいと思います。

今回の「福祉フェスタinはらら」にご協力いただいた皆様に心から厚くお礼を申し上げます。



地域ケア交流会と地域フェスタの歩み

特定非営利活動法人 地域ケア交流会

理事長 藤山 貴博



地域包括支援センターの新設を翌年に控えた平成18年初夏、鹿児島市北部の旧吉田町に点在する介護施設の現場スタッフたちが互いの親睦を深めようと懇親会を開催しました。

この集いは、「これからの福祉業界は横のつながりが重要になってくると予想されるが、近隣事業所間の交流が少ない」ことに疑問を感じていた複数の有志たちが企画したもので、その会には「地域ケア交流会」という名称が付けられました。

その中で、「事業所連携で地域貢献活動に取り組み、互いの親睦を深めながらそれぞれが所属する事業所の地域密着を図ってはどうか?」という提案が出され、この案に共感したメンバーが法人の垣根を超えてボランティア団体「地域ケア交流会」を結成し、地元商工会青年部と鹿児島市立吉田南中学校の支援の下、第1回「福祉フェスタinよしだ」を開催しました。

初回イベントは協力者も来場者も少なく閑散としたものとなりましたが、これをきっかけに年1回のペースで同イベントを開催し続け、回を重ねる毎に協力者も来場者も増え、事業所間の交流や地域との交流を育むだけでなく、異業種交流も成せる活動へと発展していき、それに合わせて「地域ケア交流会」もボランティア団体からNPO法人へと発展を遂げました。

吉田で生まれ育まれた「事業所連携で取り組む地域貢献活動」は鹿児島市南部の谷山地区に受け継がれ、平成26年から「福祉フェスタinたにやま」がスタートし、平成29年には鹿児島市中部の原良でも「福祉フェスタinはらら」が開催されることとなりました。

これらの活動を通じて育まれた「連携の輪」は事業所間を結ぶ「大切な絆」となっており、「地域包括ケアシステム」を構築する上でも大切な要素になると考えております。今後も、このような活動が継続し、発展するよう、NPO法人地域ケア交流会は研鑽に努めて参ります。

福祉フェスタ in よしだ



福祉フェスタ in たにやま



オレンジテラスをご存知ですか？

NPO法人オレンジハート

理事 高田マキ

オレンジテラスの目的は「ケアする側をケアする」集いです。この活動では、ご自宅や介護施設などで介護と向き合っている介護者を支援するために、「交流・学び・癒し」を提供する認知症カフェの要素を含んだ空間であり、毎日を頑張っている介護者が元気になる空間です。

「交流」では・・・介護相談対応と仲間づくり

「学び」では・・・認知症予防や症状の緩和に役立つ活動の紹介と体験

「癒し」では・・・自分自身を癒すリフレクソロジーの体験と心と体の負担軽減を目的とした空間を創りました

この活動の背景には、「介護者に対するケアが不足している」という課題に気付いたことがきっかけです。「介護者を孤立させない、不安にさせない」こと、「疲れやストレス、悩みを1人で抱え込ませない」こと。そして何よりも介護をしている人達が健康で、心のゆとりを持つことができ笑顔でいられるようにとの思いで企画しました。

オレンジテラスは、鹿児島市、鹿児島県の助成を受け、済生会鹿児島地域福祉センター様の共催を頂き、運営に際しましては多数の企業と医療・介護事業所の皆様にご支援を頂きながら、平成28年9月から毎月2回、特に高齢化率の高い地域で開催して参りました。

参加した多くの皆様から、「心も体もリフレッシュできた。」と感想が聞かれ、夫の認知症介護をしている方から帰り際に、「自分の話を丁寧に聞いて頂き、家族にも涙を見せたことがないけど、人前で初めて涙ができました」とお話し頂いた事は深く印象に残っています。

活動に寄せられたご意見等から、ご高齢の介護者が多く支える側が認知症予防や介護予防に取り組める機会づくりの必要性を感じました。

新たに見えた課題を解消するために、4月から易居町に常設型オレンジテラスを開設し、今後も「ケアする側をケアする」取り組みに努めて参ります。



中庭がきれいになりました！

▶ 特別養護老人ホーム高喜苑

6月8日、武岡地区の民生委員・児童委員協議会の皆さんが、清掃ボランティアとして特別養護老人ホーム高喜苑に来てくださいました。

高喜苑では、梅雨に入る前と秋口に苑内の中庭の草刈を実施していますが、毎年この時期に皆さんで作業をして頂いています。

前日は激しい雨に見舞われ、作業ができるか心配でしたが、当日は好天に恵まれ、20名近い皆さんが午前中約2時間、施設中庭の除草作業や植木の剪定をしてくださいました。

地下足袋に麦わら帽子姿で、自前の草刈機や鎌を使い、手馴れた様子で作業される男性陣。それを手際よく片付けていく女性陣。雑草に覆われ、木々が生い茂っていた中庭がきれいに整地され、見ちがえるような景観になりました。

梅雨の晴れ間には、すっきりとなった中庭で、入居者の皆さんが、紫陽花の花を眺めながら、気持ちよく過ごして頂けると思います。

ご参加頂いた民生委員の皆さん、ありがとうございました。



桜島に行ってきました！

▶ シルバーフラット武岡台

5月20日、「桜島よりみちクルーズ」に行ってきました。

2015年就航の桜島フェリー最新、最大級の「サクラフェアリー」に乗船した一行は、マスコミにも度々取り上げられる「やぶ金」のうどんをいただきながらプチクルーズを楽しみました。桜島フェリーが毎日1便運航するクルーズは、普段の定期航路とは異なるコースで、海に浮かぶ神瀬灯標・沖小島や大正溶岩原など、桜島と錦江湾の魅力を海上から約50分間で身近に楽しむことができます。

下船後は、溶岩道路を経由して火口に最も近く市街地を一望できる絶景スポット「湯平展望所」に立ち寄り記念撮影。「火の島めぐみ館」でお土産を買い、「桜島小みかんソフトクリーム」を美味しくいただいて帰路につきました。今回は残念ながらイルカには出会えませんでした。施設から朝夕眺めている優美な桜島の自然の豊かさや、雄大さを体感され感激の様子でした。6月は指宿の「唐船峡そうめん流し」を予定しています。



★★★「目指すのは オンリーワンのおもてなし」

サービス向上委員会

福祉センターでは、職員のサービス意識向上に向けた啓発活動の一環として、職員からサービス向上に関する標語を募集しています。

応募のあった75作品の中から、なでしこ訪問看護ステーション所属吉村恭子さんの「目指すのは オンリーワンのおもてなし」が今年度の最優秀賞作品に選ばれました。

このほか以下の11作品が優秀賞作品に選ばれました。これらの作品は月替わりで各施設・事業所に掲示されます。

★★★ 優秀賞作品

気を配る あなたの心が 杖となる

信頼は 日々の気配り 積み重ね

頼ってね 杖と手すりと 私の手

ありがとう すべての癒す 魔法のことば

目指せ! 選ばれる介護

自己中評価は危険です 価値観は十人十色 百人百様

その対応 あなたがされても怒らない?

お互いの信頼深めて連携プレイ

言葉より 伝わる その笑顔その態度

①最高の笑顔のため ②精一杯の思いやりの心で ③快適なライフをサポートしよう

“疲れた” “面倒” “帰りたい” みえたらNG プロとして



サービス向上委員会は・・・

サービス向上委員会は、ご利用者及びそのご家族の安心と満足度を高め、信頼関係を構築することを目的として、地域福祉センターが提供するサービスの質の向上と、安全性の確保に努めています。

「ご利用者満足度調査」や苦情対応、接遇マナーの向上などの活動を行っています。

高齢者を支援するときに援助者に求められる7つの態度についてシリーズでご紹介をさせていただきます。

4.適度な距離を置いた態度

援助するうえで、必要以上に馴れ馴れしい関係は

私情を生む危険性がありますが、

冷たく接することにも大きな問題があります。

馴れ馴れしくない、冷たくもない、適度な心理的距離とは、

人間らしい感情を仕事として表に出すことができると同時に、

仕事にとってマイナスになる感情を

うまく抑えることができる距離です。

そして必要に応じて距離を調節することが大切です。



〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

特別養護老人ホーム 高喜苑

〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8253 **FAX** 099-284-8252

シルバーフラット武岡台

〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6870 **FAX** 099-283-6871

済生会なでこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-202-0710 **FAX** 099-283-4733

指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4737 **FAX** 099-283-4733

グループホーム武岡5丁目

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目16番23号

TEL 099-282-6081 **FAX** 099-283-3533

グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-7231 **FAX** 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター

〔指定通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

デイサービスセンター 高喜苑

〔認知症対応型通所介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8254 **FAX** 099-284-8255

なでしこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-281-9292 **FAX** 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑

〔指定訪問介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ

〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

訪問入浴センター 高喜苑

〔指定訪問入浴介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4731 **FAX** 099-283-4733

訪問給食センター 高喜苑

〔鹿児島市委託事業所・配食事業〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-283-4730 **FAX** 099-284-8255

鹿児島県済生会

〔支部〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-210-5460 **FAX** 099-210-5560

編集 後記

武岡地区に続きお隣の松元地区でも「ボランティア養成講座」を開催した。この講座が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けられるよう包括的に支援する「地域包括ケアシステム」構築に貢献し、共に地域に生きる人々の間に「相互扶助」の輪が広がることを期待したい。団塊の世代が75歳を迎える2025年までに残された時間はそう長くもない。